

## 編集後記

雑誌名	東日本歯学雑誌
巻	3
号	1
ページ	114
発行年	1984-06-30
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1145/00007114/">http://id.nii.ac.jp/1145/00007114/</a>

## 会費納入のお願い

正会員，準会員，賛助会員で昭和58，59年度会費の未納の方は，事務整理上至急ご納入下さるようお願いいたします。

払込みは北海道銀行当別支店（普通No. 128259）宛，または同封郵便振替用紙をご利用下さい。  
(会計委員会)

## 原稿募集について

次号（第3巻，第2号）の発行は本年12月31日です。

会員各位の投稿原稿募集の締切りは9月30日(日)必着と致します。

期日厳守の上，ご投稿をお願い上げます。本誌投稿規定ご参照の上“提出原稿の書き方”を編集委員会にご請求下さい。  
(編集委員会)

## 編集後記

例年になく冬将軍が永く居すわり，今年も冷害になるのではないかと案じた程で春の待ちどおしい年であったが，校正に追われたこの一ヶ月の間は暖かく晴天の日も多く，この調子で穏やかな夏に，豊かな秋の実りへと移ってくれることを祈るこの頃である。

待望の本学部一期生の卒業，この諸君の国家試験の結果や如何と固唾をのむ思いであったが，見事全員合格を遂げ，健闘した卒業生の努力と，教育に全力投球をされた教官各位の努力との賜物であり心よりご同慶の意を表したい。

創刊以来4冊目，会員諸氏の研究成果のご投稿も軌道にのってきた感があり，教育・診療にご多忙中にも拘らず本号に研究の進展，業績の発展に奮闘された貴い結果である原稿を頂いた各位に感謝の念で一杯である。

総説を神沢教授（学部長，本学会長）にお願いし，当初ご承諾を頂いたが公私ともにご多忙のため不可能となった。急遽本学会理事でもあり病院長の重責にて日夜繁忙を極めておられる堀越教授に無理にお願いし，執筆日時の余裕もないなかをお引受けになり本誌にみるような豊かな臨床経験をふまえての貴重な一文を頂いた。

本文は専門分野に対する教育者としての哲学の一端を，また臨床家としての信念を盛られたもので，先生の強い責任感，高潔なご人格のあらわれで，会員諸氏のご熟読を是非お願いする次第である。

庶務報告でご承知の通り本年一期生の卒業により今後引続き会員数も大幅に増加することとなり本学会の発展に益々拍車がかけられるものと期待される。本誌ではこの新入会員の生涯教育の一環として研修講座を継続して載せることとした。最初に臨床上常に遭遇するX線写真の異常像の読影を金子教授にご依頼した。今後の続編とも併せてご一読ご利用をお願いしたい。

その他学会主催の研修会の企画も理事会で論議されており，本学卒業生のみならず広く一般にも開放し地域歯科医療の向上にも一助を果すこととなろう。  
(6/6 Y. O. 生)